

## 事業計画書（公表用）

## 1 管理運営にあたっての基本方針等

## (1) 施設の現状認識

## 「花と緑に親しむ場の提供」

家族や友人との憩いの場として利用されており、学校や幼児施設、高齢者施設、病院など、施設単位での利用も増えている。来園者自らが土と植物に触れながら、新しい生活様式に対応して安心かつ安全に楽しめる公園を目指す。

## 「花のある生活の提案」

花のある生活が、個人の住宅や地域の花壇づくりに、ごく自然に取り入れられ、住民発信のバラ園ツアーが開催されるなど、花が生活に身近な存在になりつつあると感じている。今後は、気候風土や趣向、併せて新しい生活様式にあった花のある生活を提案していき、花のまちづくりを応援する取り組みを継続する。

## 「花に関する情報発信」

隣接する山口県花き振興センターと連携した、花の公園ならではの品目品種にこだわり植栽をしている。また、ガーデニング講座などを開催し、より高度な園芸知識の普及に努めているが、まだガーデニング上級者の満足感や期待感までは満たせていない。情報の中身や発信方法について、さらに調査・研究を進める。

## 「花きについての理解を深める」

限られた花壇スペースの中で、一年草や宿根草、樹木を、どのように植栽するかを、花壇を見たり、植え付けを体験したりしながら理解していただくようにしている。手作りのガイドブックを見ながら、園内の10カ所のポイントに植えてある草花や樹木を見て歩く「ウォーキングラリー」を初開催したところ、非常に好評だった。こうした試みを今後は増やしていきたい。

## 「花きの消費拡大」

開園以来、15年間にわたり、それぞれの生活シーンに合った花きの使用方法や、気候風土や趣向にあった花のある生活を提案するなど、花きの消費拡大に努めてきた。ただ、日常生活の中で、機会あるごとに花を贈る習慣などが十分に定着したとは言えず、花きの消費拡大は道半ばである。山口ゆめ花博を契機に新しい品種を求める来園者も増えており、この流れを、山口県花卉園芸推進協議会などとの連携により、花の地産地消や消費拡大につなげていきたい。

## 「花き振興」

花き振興については、生産及び消費の両面とも、満足できる水準に達していない。花き振興センターや県内生産者などと連携を図りつつ、引き続き、花き振興に取り組む。

## 「顧客満足度（CS）の向上」

来園者に満足していただくために、何をどのように提供するか、また、それを達成するためにはどのような仕組みが必要なのかを常に念頭に置き、継続して入園していただける管理運営を心がける。

## (2) 管理運営にあたっての基本方針

○花きの消費に対する意識の高揚を図り、地域の花き振興に寄与するように努める。

花のある生活の創造につながる、多様なガーデニングを提案し、花き消費に対する意識を高める。気候・土壌条件に馴染む地元で生産される「こだわりの花苗」を花壇苗として利用することにより、花きの地産地消の促進や花き育苗の知識向上、生産・販売等に関する情報提供により、花き生産者の養成、産地化を支援する。

○自然環境を活かしたふれあいの場として活用する。

フラワーランドは、棚田の地形や周囲の山林が極力自然のまま残され、庭園内には地域の歴史的建造物である長溝水路も活かされた施設となっている。

里山環境やビオトープを保全し、自然と歴史、造成された庭園等を一体的に利活用し、交流、ふれあいの場として提供する。

- 地域との連携による参加型・交流型の運営を行い、リピーターの確保に努める。  
市民、学校、各種団体等に働きかけ、コミュニティーガーデンの庭づくりに積極的に参加していただき、地域と共に育つフラワーランドを目指すとともに、イベント・講習会等を充実させ、情報の受発信を行い、花・緑に対する活動を活性化させる。
- 子どもから高齢者、障がい者等の区別なく、誰でも参加できる企画・運営を行う。  
フラワーランドは、ユニバーサル施設計画を基に整備されている。園芸療法等の考えを取り入れ、花や園芸の持つ「心の癒し」、「心の健康」の効果を検証するとともに、緑や土と触れ合うことで、あらゆる人に安らぎを感じてもらえる運営を行う。
- 山口県花き振興センターと連携した運営に努める。  
山口県花き振興センターとの連携を密にした運営を行うことにより、県産花きの生産、山口県民への情報提供、販売促進など相互に機能を補完しながら、相乗効果を発揮できるよう努める。
- ボランティアの参画による運営の活性化に努める。  
開園当初から組織している「フラワーランド倶楽部」(R1年度末現在の会員数108人)を中心に、園内ガイド、ワークショップ等にボランティアとして参画していただき、施設運営を活性化させる。
- 民間事業者との連携について、調査・研究を進め、その具現化を目指す。  
イベントの企画、物販施設の運営など、花壇の管理以外の分野で民間活力を生かした斬新な手法を導入するため、民間事業者との連携について調査・研究する。民間との連携により、入園者の増加や満足度の向上、物販施設の売上増につながるアイデアを創出し、効果が期待できる手法・提案については、早期にその具現化を目指す。
- 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策を徹底する。  
「新しい生活様式」に基づき、①身体的距離の確保②マスクの着用③手洗いの3つの基本的な感染対策を職員・スタッフが徹底するとともに、HPやポスター等を利用して、来園者へも感染防止対策への協力を呼び掛ける。
- 公の施設として、平等な施設使用の確保に努める。
- 常に経費を精査し、業務を見直すことにより管理経費を節減する。

## 2 業務についての方針及び実施計画

### (1)実施内容の概要

#### ①イベント、展示会、講座等の実施計画について

音楽ライブや大道芸等のイベント会場周辺に、鉢植えやプランターを配置し、花の公園ならではの演出につとめる。山口県花卉園芸推進協議会や地元の各種園芸団体等と連携し、山口県マンスリーフラワーや洋ラン、山野草、盆栽などの展示会を逐次開催する。講座等は、より多くの人々が身近に花と触れ合う機会を実現していくため、美しい環境の中で、楽しさを体感し、より一層花の持つ多様性を実感することができる体験型や交流型のものを中心に展開する。

#### ②花きに関する情報の収集及び発信の実施計画について

開園当初から、「美しい花を生産するまち」や「美しい花をあしらうまち」の実現に向けて、花きに関する各種の情報を発信するとともに、施設の管理運営につとめてきた。

今後は、園芸の技術水準やガーデニングに対する来園者の意識を、さらに満足させるような情報の収集・発信を行い、来園者の庭づくりや花のある空間づくり等を支援する。

#### ③施設の利用促進への取組について

広報・PRは、開花情報にせよ行事・催しの情報にせよ、常に最新の情報を迅速に提供することを心がけ、リピーターの確保と、新たな顧客層の創出を図っていく。

そのため、活動時期と商圈エリアを設定し、広告媒体ごとの特性を活かした広報及びPRを継続して実施する。

また、他産業や他施設との連携を図り多様な人々に対して広報・PRを行う。

④地域や団体等との協働について

花と緑を愛好し、フラワーランドの運営に対する助言やボランティア活動していただく方で、「フラワーランド倶楽部」を組織しており、施設運営の面で強力な援軍となっている。園内に植栽する花壇苗等については、庭園の管理が容易になるよう山口県農業協同組合南すおう統括本部管内で産地化を進めてきた。また、他の花苗についても県内で生産された苗を利用することにより、県内の産地化を支援する。

また、花き振興センターとも協力しながら、園芸メーカーとの連携を図る。

(2) 実施体制

平成18年の開園以来、3期15年間にわたって指定管理者として培ったノウハウをさらに発展させ、改善すべき点については、謙虚に反省し、次期指定管理に活かす。

庭園管理業務に長年携わってきた職員や園芸療法士の資格を持つ職員に加え、庭園監督には、園芸関連学科等の卒業者を採用している。その他の職員・スタッフも、実務経験を積み重ねており、効率的に業務を遂行している。朝礼は毎日、定例会議は隔週（第2・第4火曜日の午後）で開催しており、そうした場を活用して、随時職員研修を行う。

その他、柳井市との連携により定期的に各種講習会へ参加する。